

DNP Report

株主通信 (証券コード: 7912)



Vol.127

INDEX

- TOP MESSAGE 株主の皆様へ
- [特集]DNPの強みの源泉
- Pickup News
- 2027年3月期 第1四半期決算のご報告



DNP

150年間培った独自の強みを活かし、 「より良い未来」の実現に向けて 価値創出の挑戦を続けていきます。

代表取締役社長

北島 義斉よしなり



株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。

私たちDNPグループは、多くの皆様に支えられて、今年10月に創業150周年を迎えます。1876年の創業から1世紀半にわたって、私たちが多様な事業領域を切り拓き、持続的な成長を実現してきたのは、当社ならではの強みがあるからです。それは、印刷プロセスに立脚した技術を常に高度化させるとともに、「対話と協働」によって社内・社外の強みを掛け合わせ、革新的な製品・サービスを通して新たな価値を生み出し、人々の身近にあたりまえに存在するように普及させていくことです。その基盤には、創業から続く“挑戦のDNA”があり、それを「強力な研究開発体制」「高い特許競争力」「独自の生産設備と生産プロセス」で支えています。こうした強みで高い参入障壁を構築し、長期にわたる競争優位を確保しています。(4-5ページの「特集」をご参照ください。)

そして、この創業150周年という大きな節目に、新たな3か年の中期経営計画(2026-2028年度)をスタート

させました。事業成長と資本効率向上の両立とともに、中長期を見据えた新規事業の開発にも挑戦し、社会と人々に欠かせない新しい価値を提供し続けていきます。

この計画の初年度の第1四半期(2026年4-6月)は、「スマートコミュニケーション」「ライフ&ヘルスケア」「エレクトロニクス」の三つの部門(セグメント)で、主に以下の取り組みを推進し、事業の拡大に努めました。その結果、当期間の連結業績は、売上高が前年同期比1.9%増の3,729億円、営業利益が21.3%増の278億円、経常利益が25.0%増の352億円、親会社株主に帰属する純利益は48.0%減の235億円になりました。

【スマートコミュニケーション部門】

- イメージングコミュニケーション関連:写真プリント用部材が欧米・アジア市場を中心に好調に推移したほか、欧米での撮影サービスが増加しました。
- 情報セキュア関連:BPO(Business Process Outsourcing)は、堅調に推移しました。また、当事業ではグローバル市場での競争力強化に力を入れて

います。今年5月、欧州・アフリカ・北米で決済ICカードや政府向け公的IDなどの事業を展開するAUSTRIACARD HOLDINGS AGを公開買付けで取得することを決定。今後、同社および2025年7月にグループに迎えたRubicon社との協業を通じて、本事業のグローバルシェア拡大を加速させます。

【ライフ&ヘルスケア部門】

- 産業用高機能材関連:電気自動車市場の持ち直しを背景に、リチウムイオン電池用バッテリーパウチの車載向け需要が回復傾向にあります。太陽電池関連は、データセンター向けに電力需要が急増する中、比較的簡易に導入できる太陽光発電への関心が高まり、太陽電池の電極やセル等を保護する封止材が好調に推移しました。
- モビリティ関連:自動車向け加飾フィルムが、内装用を中心に堅調に推移しました。

【エレクトロニクス部門】

- デジタルインターフェース関連:有機ELディスプレイ製造用メタルマスクがハイエンド向けで増加し、ディスプレイ用光学フィルムは堅調に推移しました。
- 半導体関連:半導体製造用フォトマスクは、超微細な先端品が増加したほか、やや微細なボリウムゾーンの製品も堅調に推移しました。積極的な投資も進め、EUV(Extreme Ultra-Violet:極端紫外線)リソグラフィ用フォトマスクやナノインプリント等の最先端領域の事業展開にも注力します。

DNPグループは、長期を見据えて自ら変革を起こし、「より良い未来」をつくり出す事業活動を展開しています。生成AI等の先進技術も活かし、多様なパートナーとともに新たな価値を創出することで、さらなる成長をめざします。株主の皆様には、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

DNPの強みの源泉

高度化された印刷技術を基盤とした付加価値の高い
製品・サービスを提供し続け、「未来のあたりまえをつくる。」

スマートコミュニケーション部門

ライフ&ヘルスケア部門

エレクトロニクス部門

DNP独自の強み(P&Iイノベーション)

高度化された印刷技術

情報処理技術

微細加工技術

精密塗工技術

後加工技術

強力な研究開発体制

高い特許競争力

生産設備の自社開発による
高い参入障壁

非連続的な発想で、変革に挑戦する組織風土

FOCUS DNP [特集] DNPの強みの源泉

高度化された印刷技術で未来を切り拓く

印刷技術を応用・発展し、世界トップシェアの製品・サービスを生み出す

DNPの強みの源泉は、創業以来磨き続けてきた“印刷技術”と、変革に挑戦する“イノベーションマインド”にあります。情報処理、微細加工、精密塗工、後加工などの高度化された印刷技術と、顧客との対話を通じて磨き上げたプロセス設計・マネジメント力などを掛け合わせ、独自の強みを生み出し続けています。こうした強みを積み重ねて高い参入障壁を構築し、世界や日本国内でトップシェアを持つ製品・サービスを開発・提供しています。事業ビジョンに掲げる「P&Iイノベーション」で事業領域を上げ、社会と人々に欠かせない価値を提供し続けていきます。

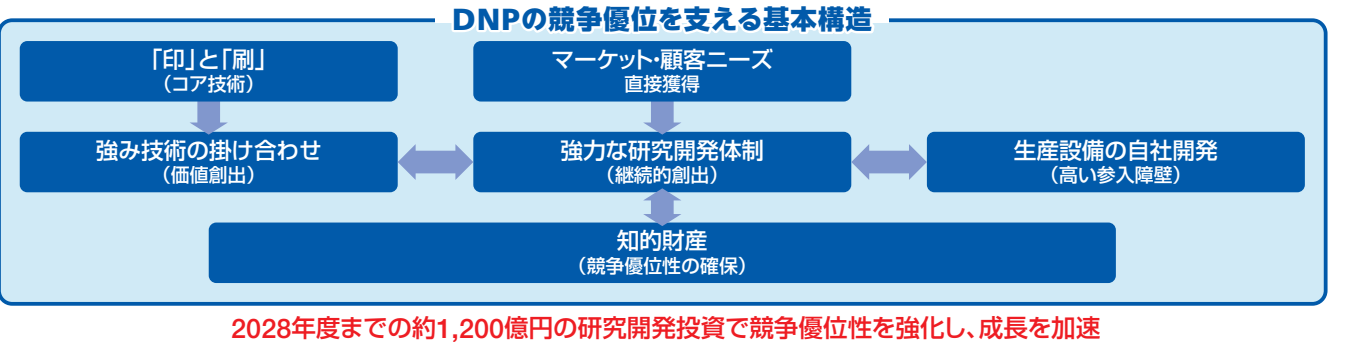


研究開発戦略による競争優位の確立

DNPは事業部門が起点となり、市場や顧客企業、生活者から課題・ニーズを直接獲得し、技術創出から事業拡大までつなぐ研究開発の体制と戦略的な投資により、その成果を確実に事業価値へ転換しています。事業部門が捉えた課題を「印(価値設計)」と「刷(再現・量産)」のコア技術*に結びつけ、独自の強みを持つ技術同士を掛け合わせて新たな価値を生み出します。その価値創出が事業として成り立つまで一貫して支えるのがDNPの研究開発です。また、材料設計から生産プロセス、製造設備まで自社開発して“ブラックボックス化”するとともに、知的財産として確保することで高い参入障壁を築

いています。こうした基本構造をさらに強固にするため、2028年度までの3年間で約1,200億円の研究開発投資を行って競争優位性を高め、持続的な成長を加速させていきます。

*DNPは「印刷」の技術を「印(価値設計)」と「刷(再現・量産)」の二つの要素で捉えています。「印」は企画・設計や情報処理、微細加工など、価値を設計する技術領域であり、「刷」は精密塗工や後加工など、価値を高精度に再現・量産する技術領域です。また、材料開発や評価・解析などの周辺技術が全体を支えるとともに、全ての技術を単独ではなく相互に連動させることで変革を加速させています。DNPは紙やフィルム、金属等のモノの表面に多様な機能と情報を与え、新たな価値を創出する技術として「印刷」を独自に進化させ続けているのです。



DNPグループ創業150周年 長寿企業調査から読み解く「DNPの強み」

DNPは自社の創業150周年を機に、創業から100年以上続く国内企業を対象とした独自調査*を実施しました。調査から見てきた長寿企業の特徴は、DNPの強みや価値創造への挑戦にも重なります。



長寿企業調査の結果はこちらでご覧いただけます。

強み1 環境変化を先取りし、自ら事業を変革する

長寿企業調査では、100年以上継続できた理由として、「時代や環境の変化に合わせて事業内容や事業構成を見直してきたこと」が最も多く挙げられました。各社に共通するのは、変化を成長の機会と捉え、自ら変革を続けてきた点です。DNPもまた、社会や市場の変化を先取りし、印刷技術の高度化と応用を通じて事業領域を広げ、新たな価値を創出し続けています。現在、自らが「より良い未来」をつくり出す「第三の創業」に挑戦しています。

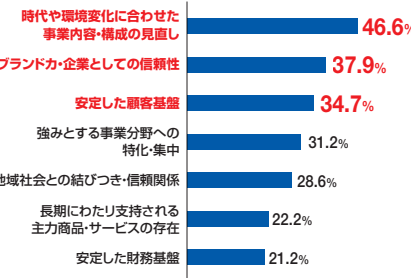
強み2 顧客のニーズ・課題を起点に強みとなる技術を進化

イノベーションを生み出す原動力としては、「顧客ニーズ・顧客課題」が最も多く挙げられました。強みに関する設問でも、「強固な顧客基盤・顧客との信頼関係」が最多となり、「技術力・ノウハウ」が続きました。多くの長寿企業と同様に、DNPも顧客からの高度な課題を解決する中で印刷技術を応用・発展させ、多様な領域に事業を拡張しています。顧客起点で強みを深化させる企業姿勢が、中長期的な価値創造につながっています。

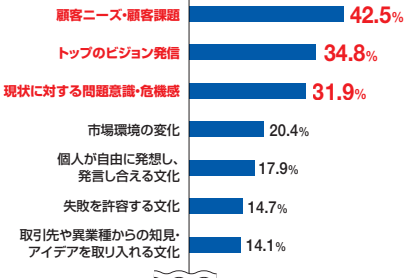
強み3 ビジョンを組織に浸透させ、挑戦する風土を育む

今回、イノベーションを生み出す原動力の2位に、「トップのビジョン発信」が挙がりました。また、成長を続ける企業ほど、「理念やビジョンが日々の業務や意思決定に結びついている」割合が高いことも明らかになりました。DNPも、経営トップが価値創出の現場で社員一人ひとりと対話を重ね、その挑戦を後押ししています。社員とビジョンを共有して挑戦を促す取り組みも、長寿企業の成長要因と重なっています。

100年以上事業を継続できた理由は？



イノベーションを生み出し続けられた原動力は？



*『長寿企業に関する経営意識調査』(調査主体:大日本印刷株式会社、調査対象:創業100年以上・売上100億円以上の国内企業、N=314社、調査期間:2026年1～2月)

TOPICS グローバル事業の拡大 | スマートコミュニケーション部門 情報セキュア関連

新たな成長機会を活かし、注力事業領域のグローバル展開を加速

DNPは、人口の増加が見込まれ、社会のデジタル化が進む新興国を有望市場と捉え、その開拓に積極的に投資することで、情報セキュア関連事業のグローバル展開を加速していきます。

これまでDNPは、アジアの金融業界で強みを持つベトナムのMKスマート社、インドネシアのPT.Wahyu DNP Bureau社と資本業務提携し、各国・地域の法的ID用のICカードやホログラムで実績を上げてきました。2025年7月にはRubicon社を買収し、アフリカを中心とした新興国での政府向け公的ID領域で事業の拡大に努めています。

また2026年5月に、AUSTRIACARDへのTOB実施を発表。同社は、金融および政府向けIDの領域で東欧・中東・アフリカ・北米で強い顧客基盤を持ち、AI等を活用したデジタルソリューション開発にも注力しています。

DNPのアジア、Rubicon社のアフリカに、AUSTRIACARD

社の東欧・中東・アフリカ・北米を加えた地域を事業基盤とし、技術連携、対応エリアの補完、クロスセルを通じ、情報セキュア関連事業のグローバル展開を加速させます。特に大きな経済成長が見込まれるアフリカとアジアを重要市場と捉え、公的IDとID認証を中心にDNPグループの事業をさらに強化していきます。



国民IDカードや選挙カードを現地で即時発行



Rubicon社のID認証サービスの運用イメージ

Pickup News

2026年7月13日開催

機関投資家・アナリスト向けに「DNPグループ IR-Day 2026」開催

DNPは機関投資家・アナリストの皆様に向けて、事業活動への理解・共感を深め、中長期的な視点での対話につなげるため「IR-Day 2026」をオンラインで開催しました。DNPの強みの源泉、

中期経営計画の全体像、注力事業や成長ポテンシャル事業の成長戦略などについて対話を深めました。参加者からは、「テーマ設定や時間配分、説明内容や質疑応答など、全体的に満足度が高かった」「半導体関連の市場拡大や成長戦略への理解が深まり、今後の成長期待が高まった」「注力事業・成長ポテンシャル事業の戦略に加え、研究開発力や生産技術力などDNPの競争優位性への理解が深まった」などの声がありました。「注力事業だけでなく、基盤事業や再構築事業も含めた全社の成長ストーリーをより分かりやすく示してほしい」などの意見もいただきました。今後のIR活動に活かしていきます。

©「IR-Day 2026」の資料や動画は、DNPのWebサイトをご覧ください。
<https://www.dnp.co.jp/ir/library/presentation/index.html>



2026年9月18日 日本語版PDF公開

「DNPグループ統合報告書2026」を発行しました

DNPは、企業価値の向上と「より良い未来」の実現の両立を追求し、持続的に成長する姿をステークホルダーの皆様にご理解いただくため、最新の「統合報告書」を発行しました。本誌は、事業戦略・財務戦略・非財務戦略を明示し、事業を通じた価値の創出、経営基盤の強化、経営体制などを紹介する年次報告書です。DNPはまた、有価証券報告書・株主通信等をタイムリーに発行し、対話の機会も設けて説明責任を果たし、企業価値の向上につなげていきます。

©DNPのWebサイトで日本語版PDFをダウンロードできます。
<https://www.dnp.co.jp/ir/library/annual/index.html>

※英語版PDFおよび、日本語版の冊子も発行する予定です。



DNPのWebサイトのご案内

コーポレートWebサイトで、最新のニュースやIR情報など、DNPについてご理解いただくための多様な情報を提供しています。ぜひご活用ください。

●各ページのURL

- トップページ<https://www.dnp.co.jp/>
- 投資家情報.....<https://www.dnp.co.jp/ir/>
- 個人投資家の皆様へ.....<https://www.dnp.co.jp/ir/individual/>
- 株主通信「DNP Report」... <https://www.dnp.co.jp/ir/library/dnp-report/>
- ニュース<https://www.dnp.co.jp/news/>
- 新CM <https://www.dnp.co.jp/brand/>



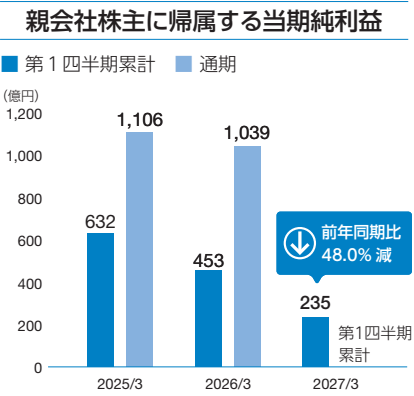
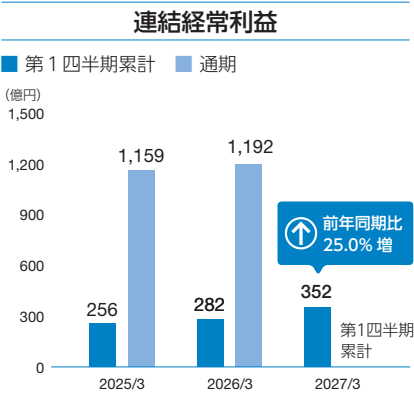
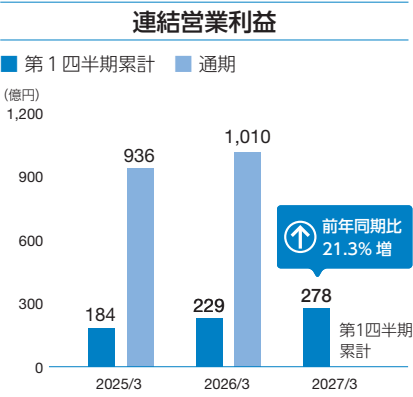
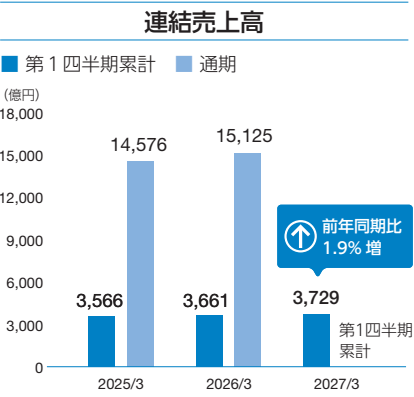
個人投資家の皆様へ

2027年3月期 第1四半期決算のご報告 (2026年4月1日～2026年6月30日)

連結業績の概況 (単位:億円)		
科 目	当第1四半期	前第1四半期
売上高	3,729	3,661
営業利益	278	229
経常利益	352	282
親会社株主に帰属する 四半期純利益	235	453

連結業績の予想 (単位:億円)	
科 目	2027年3月期通期(対前期増減率)
売上高	15,300 (+1.2%)
営業利益	1,080 (+6.9%)
経常利益	1,240 (+4.0%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	950 (△8.6%)

1株当たり当期純利益224円45銭



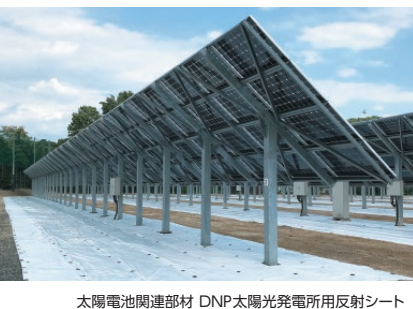
連結貸借対照表(要約) (単位:億円)		
科 目	当第1四半期 連結会計期間末	前連結会計年度末
資産の部	20,801	20,341
流動資産	8,486	8,594
固定資産	12,315	11,746
負債の部	7,722	7,670
流動負債	3,682	3,801
固定負債	4,040	3,868
純資産の部	13,078	12,671

スマートコミュニケーション部門



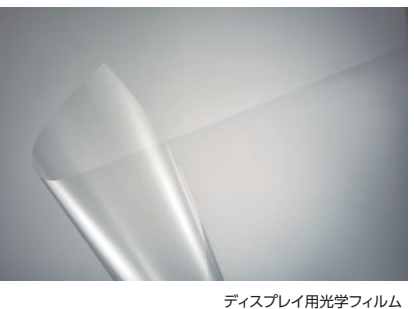
売上高 1,739億円 前年同期比 1.4%増
営業利益 51億円 前年同期比 13.9%減
写真プリント用部材が好調に推移し、欧米での撮影サービスが増加。BPOは堅調に推移するも、ICカードの販売数量が減少。マーケティング関連の紙媒体の市場縮小等の影響もあり、減収・減益となりました。

ライフ&ヘルスケア部門



売上高 1,277億円 前年同期比 0.5%増
営業利益 115億円 前年同期比 21.8%増
データセンター向けの電力需要急増で太陽電池用部材が好調に推移。モビリティ関連は自動車向け加飾フィルムが堅調に推移。コストダウンや事業構造改革効果などにより、増収・増益となりました。

エレクトロニクス部門



売上高 713億円 前年同期比 12.4%増
営業利益 178億円 前年同期比 28.2%増
光学フィルムはテレビ用パネルの大型化を背景に堅調に推移。有機ELディスプレイ製造用メタルマスクはハイエンド向けが増加。半導体製造用フォトマスクの拡大等により、増収・増益となりました。

「DNPenguin 卓上カレンダー」プレゼント

2027年版「DNPenguin 卓上カレンダー」を株主の皆様へプレゼントいたします。DNPenguinは、DNPの多様な取り組みや製品・サービスをわかりやすく紹介するオリジナルキャラクターです。

プレゼントご希望の方は、同封のハガキに、お名前、電話番号、ご住所、株主番号(同封の「送付票」右下に記載されている9桁の番号)を全てご記入いただき、同封の保護シールを貼付のうえ、ご返送ください。

※お送りするカレンダーは、お一人様1部、日本国内の発送に限らせていただきます。※株主様ご本人のお名前でお申込みください。※株主登録のないお名前でお申込みされた場合および記入項目に不備や空欄がある場合は、お届けできないことがあります。※発送は2026年12月頃を予定しています。

お申込み締切 **2026年10月31日(土)当日消印有効** ※締切日にご注意ください。

お問い合わせ

「DNPenguin 卓上カレンダー」プレゼント事務局

電話：0120-300-054(フリーダイヤル)

お問い合わせ受付期間:2026年10月6日～2027年2月1日(土・日・祝日除く10:00～17:00受付)

※2026年12月26日～2027年1月4日は年末年始につき、お問い合わせ受付はお休みとさせていただきます。

〈お申込み情報の取扱いについて〉

ハガキにご記入いただきました情報は、「DNPenguin 卓上カレンダー」のお届けに利用するとともに、2027年6月以降の株主総会に関するお電話でのご案内に利用させていただくことがあります。なお、この目的の実施のためにDNPのグループ会社に業務を委託する以外には、第三者へのお申込み情報の提供は行いません。DNPの「個人情報保護方針」につきましては、Webサイトをご覧ください。

大日本印刷株式会社個人情報保護方針 URL <https://www.dnp.co.jp/privacy/>

大日本印刷株式会社 IR・広報本部 IR室 個人情報取扱責任者 IR・広報本部 IR室長

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会開催時期	6月
上記総会における議決権の基準日	3月31日 その他必要のある場合は、取締役会の決議によりあらかじめ公告して設定します。
剰余金の配当基準日	期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所
公告方法	電子公告により行います。(当社のWebサイト https://www.dnp.co.jp/ir/) ただし、事故その他やむを得ない理由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

株式事務に関するご案内

1. 住所変更、配当金受取方法の変更等のお問い合わせ先、お手続き窓口

- 証券会社等に口座をお持ちの株主様
株主様が口座を開設されている証券会社の本支店
- 証券会社等に口座を開設されていない株主様(特別口座)
(お問い合わせ先) みずほ信託銀行 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
フリーダイヤル 0120-288-324(土・日・祝日を除く 9:00～17:00)
(お手続き窓口) みずほ信託銀行 本店および全国各支店(トラストラウンジを除く)
※ご転居の際には、住所変更のお手続きを、必ずお願い申し上げます。

2. 未払配当金のお支払窓口(払渡し期間経過後の配当金領収証によるお受け取り)

- (お支払窓口) みずほ信託銀行 本店および全国各支店(トラストラウンジを除く)
みずほ銀行 本店および全国各支店

デザインは変更になる場合があります。ご了承ください。



縦 約14cm×横 約19cmの紙製カレンダー

同封のハガキ

「DNPenguin 卓上カレンダー」申込みハガキ

本ハガキの右下の「お申込み情報の取扱い」欄に記入のうえ、お送りください。

お名前	姓	名
お名前	姓	名
お名前	姓	名
お名前	姓	名
お名前	姓	名
お名前	姓	名
お名前	姓	名
お名前	姓	名
お名前	姓	名
お名前	姓	名

お名前 052022222

株主番号をご記入ください

DNP 大日本印刷株式会社

052022222
株主番号

「送付票」右下の番号が「株主番号」です。

●株主通信「DNP Report」に関するお問い合わせ先

大日本印刷株式会社 IR・広報本部 IR室

〒162-8001 東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号 TEL：03-3266-2111(大代表)

※当株主通信は、DNPの事業ビジョンや業績に関する情報の提供を目的としています。

記載された意見および予測は、作成時点でのDNPの判断に基づいたもので、これらの情報の完全性を保証するものではありません。

※記載されている会社名、製品・サービス名は、それぞれの会社の登録商標または商標です。